



# みらいっうしん

11月号

2018年11月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 長南 康子

☆。 , :\*: ★。 , :\*: ° ☆。 , :\*: ° 。 , :\*: ° ☆。 , :\*: ★。 , :\*: °

## やわらかく！しなやかに！遊ぶ みらいこども園の子ども達

秋晴れが続き、過ごしやすい気候の中で遊ぶ子ども達に目を向けると、様々な動きをしていることに気づきます。

その1「植える」 枯れて切り取られた夏草を見つけて、砂場の“畑”に植え始めました。

「もっとたくさん」とせっせと枯れ枝を運んできては、植えています。

軽い枯れ枝と砂の相性がほどこく「植える」ことに夢中でした。



その2「跳び越える」園庭の真ん中にタイヤ

を運んで来て、タイヤの開脚跳びをする5歳児。タイヤが固定されていないので、バランスが必要です。助走や腕の使い方など、自分のもっている力をフル稼働して、何度も繰り返して挑戦していました。



その3「まわす」

一輪車をひっくり返してまたいで乗り、タイヤをクルクル回して遊ぶ2歳児。素足に伝わる砂の感触も気持ちよさそう！友達と一緒に一層、楽しい！

その4「つなぐ」

園庭の畑で芋ほりをしました。大きなお芋と芋のツルが沢山！長く伸びたツルを手にとると「これで線を作って、リレーをしようよ」とラインを作り始めました。からまったツルをほどこきながら“つなぎ”、園庭に大きなツルのトラックが出来ました。年齢の異なる子ども達が集まってきて、ツルで編んだバトンを手にとりリレーごっこを楽しんでいました。

☆子ども達と過ごす生活の中で、私たちは「エッ！」「ワー！」「フーン！」などと、感嘆符がつく驚きに沢山出会います。「なるほどね！」と感心し、子どもの面白さに魅了されています。

大人の想像をはるかに超えて、子どもの創り出す世界はどこまでも広がります。物はそこにあるだけでは用をなさないことがあります。子どもの発想で息が吹き込まれると、ただの物ではなくなり、その価値が大きくなります。遊び方も一つとは限りません。子ども達が表す心の柔らかさ、しなやかさは豊かな心をもつ人間形成の基礎となるのだと改めて感じます。

(長南)



そら組の子どもが「お月さま、まんまるだよ！」と、教えてくれました。保育者が、本当にまんまるだねと言うと、近くにいた子どもが「じゃあ、明日は晴れだね！」「遠足、行けるね！」と言います。その弾んだ声に、翌日の遠足を心待ちにしている気持ちが伝わってきました。

月がきれいに見えたら明日は晴れると知っていることにも驚きましたが、ひとつの気づきやつぶやきを周りの子どもが受け取り、明日への期待につながっていく姿が印象的でした。

(主幹保育教諭 三ツ橋)